

（落下阻止性能試験）

次の図に示すように、2本の支柱を支柱固定ジグ（注1）に所定のスパン（注2）で取り付け、これに親綱ジグ（注3）を取り付けてこれを緊張し（注4）、安全帯用ロープを介して、親綱ジグに取り付けた85kgの垂錘をスパンの中心に自由落下させる。

なお、支柱を支柱固定ジグに取り付ける場合、取付金具がボルトの締め付け力により固定される構造のものにあっては締め付けトルクは、第1種にあっては6.00kN・cm、第2種にあっては3.50kN・cmとする。

また、第2種の試験では控綱を併用して行い、控綱の初期張力は0.3±0.05kNとする。ただし、支柱用親綱と控綱が同一のロープとなる方式の支柱の場合の初期張力は、0.5±0.05kNとする。

注1（支柱固定ジグ）：第1種にあっては厚さ16mmの鋼板、第2種にあっては建わくとする。

注2（スパン）：第1種にあっては10m、第2種にあっては9.145m《インチサイズ5スパン》とする。

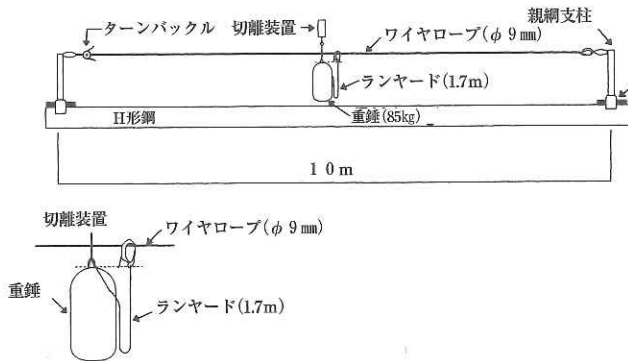
注3（親綱ジグ）：第1種及び第2種ともに直径9mm、6×24のJIS規格ワイヤロープとする。

注4（緊張力）：ワイヤロープを0.5±0.05kNで緊張する。

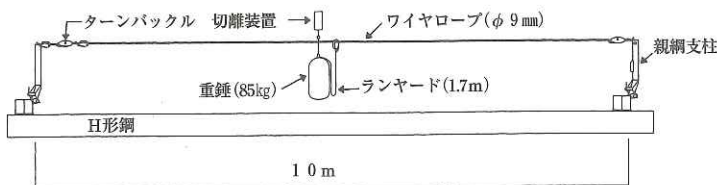
1. 支柱各部に折損（注）及び亀裂が無く、かつ、支柱が支柱固定ジグから離脱しないこと。

2. 親綱保持金具から親綱ジグが離脱しないこと。

（注）この試験の場合、支柱に折損がなく落下を阻止したときでも、支柱が下方に大きく変形を起こすと、落下距離が大きくなることから、自由落下後、支柱の親綱取付金具の床からの高さが落下前の高さの70%以下となった場合は、折損と見なす。



落下阻止性能試験の例（平行方向）



落下阻止性能試験の例（直交方向）